

審議会等会議録

審議会等の名称	平成 28 年度第 3 回山口市立図書館協議会
開催日時	平成 29 年 3 月 16 日（木曜日） 10：00～12：00
開催場所	山口情報芸術センター 多目的室
公開・部分公開の区分	公開箇所
出席者	安光会長、吉村副会長、糸長委員、大野委員、重枝委員、藤川委員、田坂委員、原田委員、中村委員、田澤委員
欠席者	児玉委員、岡田委員、
事務局	中央図書館長、小郡図書館長、秋穂図書館長、阿知須図書館長、徳地図書館長、阿東図書館長、中央図書館管理担当主幹、中央図書館サービス担当主幹
議題	1 報告事項 (1) 平成 29 年度予算の概要について (2) 新サービス計画の骨格について (3) その他
内容	<p>○事務局</p> <p>ただいまより平成 28 年度第 3 回の山口市立図書館協議会を開催いたします。 最初に、中央図書館館長より御挨拶いたします。</p> <p>○事務局（中央図書館長）</p> <p>一言御挨拶をさせていただきます。図書館協議会の委員の皆様におかれましては、平素、様々な形で本市図書館の活動を御支援いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日は、平成 29 年度新年度予算について御説明してまいります。図書館では、新年度も「日本一本を読むまちづくり」の実現に向けまして、「どんな時も身近に役立ち、出会いを大切にする図書館」を目指しまして、各種の施策を予算化して展開してまいります。</p> <p>本市サービス計画では、日本一の定義として、市民 1 人当たりの図書館の年間貸出点数の平均を中核市の最上位にすることにしております。</p> <p>昨年度、本市の貸出点数が 7.5 でございます。今年も同様程度の貸出点数を見込んでおります。では、中核市で日本一は、大阪府の枚方市が 9.0 点でございます。それを目指して、新年度も、図書館活用推進事業等、いろいろな新たな試みを行うことで、図書館運営を行ってまいります。</p> <p>そのために、まず、市民から見て魅力的な本が並ぶ書架の取組、そして、多くの市民の読書のきっかけづくりにつながるような企画、本年度同様の企画に加え、来年度は若い人向けの企画もいろいろと実施してまいります。</p> <p>それと、29 年度は平成 30 年度から 5 年間の図書館サービス計画策定の年となります。昨年夏に実施しました市民アンケートの内容等も勘案いたしまして、図書館の</p>

内部では既に検討を始めているところでございます。

新年度は図書館サービス計画の上位計画であります、山口市総合計画と教育振興基本計画、また生涯学習基本計画等も決まってきます。それらの上位計画と整合性をとりながら、来年度、図書館サービス計画を、図書館協議会の方々の御意見を聞きながら策定してまいりたいと思っております。

本日は、図書館についての日頃のお気づきの点等も含めまして、しっかりと皆さんと意見を交換いたしまして、新年度も6館で連携してよりよい図書館サービスが展開できるように努めてまいりますので、本日は忌憚のない御意見をいただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、ここからは議長を会長へお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○会長

それでは、本日は報告事項が2件ということです。平成29年度の予算の概要と、新サービス計画の骨格について、報告をしていただきます。

まず、平成29年度予算の概要について説明をお願いいたします。

○事務局

まず、平成29年度山口市立中央図書館関係の予算案の概要の総括事項について御説明いたします。

基本方針は、「日本一本を読むまちづくり」実現に向け、「どんな時も身近に役立ち、出会いを大切にする図書館」を目指して、第二次山口市立中央図書館サービス計画、第二次山口市子ども読書推進計画に基づき、各種施策を展開してまいります。

概要といたしましては、市全体に厳しい財政状況が続く中、図書館でも決算状況を鑑みた経費の精査を行い、経常的経費の削減に努めております。

また、管理的な経費は、人件費や保守業務経費の継続的な確保を図るとともに、単年度の一時的な経費として、図書貸出時磁気付加装置更新に係る経費を一般経費と別枠で確保しております。

さらに、図書館運営の基礎となる資料費については、前年度同額を確保するとともに、各種図書館事業費については内容の精査を進め、現実に即した重点配分を行っております。

その結果、図書館費全体では2億3,051万8,000円と、前年度比0.6%減の予算額となっております。

平成29年度の重点項目ですが、中央図書館及び小郡図書館のセキュリティー対策のための貸出図書磁気付加装置の更新を行います。

それから、図書館サービスの基礎資源である図書館資料のさらなる量的・質的な充実を続けて行ってまいります。

それから、図書館活用推進事業といたしまして、図書館サービスのPRを兼ねて図書館の使い方講座の実施、民間事業者と連携した事業や本市にゆかりのある等の著名人による講演会等による図書館利用者の拡大を行います。明治維新150年に向け

た、ほかの図書館や市役所内各部署と連携した講座やイベントを充実してまいります。それから、新たな市立図書館サービス計画の策定を行います。

次に、図書館関係の予算については7つの事務事業からなっております。

まず1番目、図書館管理運営業務、これは、図書館の管理運営に要する経費ですが、平成29年度予算額が1億6,637万3,000円ということで、前年度比10万3,000円の減です。28年度に小郡のBDSを更新したことにより、その分が減少しております。それから磁気付加装置更新を29年度に行うことにより、その分が増加しております。また、決算状況を鑑みて事業費を精査して削減を行っており、合計で10万3,000円の減となっています。

29年度の主な取組みとしては、貸出図書磁気付加装置の更新、それから職員の資質向上、施設設備の適正管理、市民との協働推進、それから市内大学と連携した図書館サービスの利便性向上ということで、山口学芸大学との連携も4月から始める予定にしています。

2番目の事務事業、移動図書館管理運営業務ですが、これは、移動図書館の管理運営に関する経費です。29年度予算額は139万5,000円ということで、10万6,000円の減少です。これは、燃料費等の精査による減で、内容としては28年度とほぼ同様でございます。サービスステーション数は39カ所に変更はございません。地域イベント時の臨時運行等を積極的に行っていきたいと思っております。

それから、3番目の事務事業として図書館資料整備事業、これは、予算額5,343万2,000円ということで、前年と同額を確保いたしております。資料の充実や地域資料の充実を図ってまいりたいと考えております。

4番目の事務事業、ブックスタート推進事業、これは、絵本の活用による子育てを通じた子どもの読書活動や保護者間の交流のきっかけづくりの推進に係る経費でございます。29年度の予算額は189万1,000円ということで、前年度比4万6,000円の減少。内容としては、28年度と同様の内容でございますが、ブックスタートパック数の精査による減少でございます。

5番目が子ども読書活動推進事業、これは、子どもの読書活動を推進するための行事・イベントを行う経費でございます。29年度の予算額は53万3,000円、前年度比6万4,000円の減少でございます。これも、クリスマス等の時期を捉えた行事の実施やおはなし会や上映会の実施など、それから、読書感想画「好きなお話の絵」の募集等、やることについては28年度とほぼ同様でございますが、消耗品費等を精査することによって6万4,000円減少させております。

6番目の事務事業が学校図書館支援サービス事業でございます。この事務事業では、学校図書館を支援し、読書のきっかけづくりや意欲向上を推進する経費として506万6,000円を計上いたしております。これは前年度と同額でございます。この予算の内容としては、臨時職員の経費と、それから学校団体図書の購入経費が主でございますので、前年と同額を確保いたし、28年度と同じ内容の事業を予定しています。

7番目に図書館活用推進事業、図書館利用層の拡大を図るための各種イベント等を実施するための事業でございまして、29年度予算額が1億8,200万8,000円、前年度比1億1,300万8,000円の減少でございます。大きく減少しておりますのは、28年度は市民アンケートを行っておりますので、これが29年度はございませんので、その分の減少によるものでございます。

内容といたしましては、さまざまな主体と連携した講座・イベントの開催ということで、図書館の使い方講座や民間事業者と連携した事業、例えばレノファ山口との連携を計画しております。

それから、29年度も引き続いて、図書館薩長同盟をやることにしております。それから、定例行事の実施ということで、こどもワイワイ図書館、これは、3年目になります。6館同日イベントということで、4月30日を予定しております。それから、各館の図書館まつりも行う予定でございます。

それから、29年度は平成30年度からの新サービス計画の策定をすることとしております。

以上、合計いたしまして、29年度の予算額は2億3,051万8,000円であり、前年度比で1億4,500万7,000円の減少となっております。

以上でございます。

○会長

ありがとうございます。1億4,500万7,000円の減だけでも、その主なものは市民アンケート終了、ということですので、市全体に厳しい財政状況の中であって、アンケートの関係費とそれぞれのところを精査されたということで、主要事業である、資料整備事業と学校図書館支援サービス事業については、前年度と同額の予算を確保したということですね。

世の中ではマイナスシーリングが、どんどんかかってきて、前年度よりどんどん減らされる中、市長が「日本一本を読むまち」を意識して下さって、そういう結果がこれに現れているのではないかと感じております。

それでは、例えば、それぞれのところはどのように考えているのか等の御質問があれば、よろしくお願いたします。

○委員

今年度からサービス計画策定を開始しているということで、29年度事業の説明を伺ったのですが、現在のサービス計画の当初である24年度から事業を始めてきて、サービス計画の目標が達成できていないところはどこでしょうか。

29年度までの目指す図書館の姿「どんな時も身近に役立ち出会いを大切にする図書館」とあり、現計画では利用サービスの拡充等いろいろ主要な取組について取組んでおられますが、24年度当初からみて、サービス計画のこの項目がまだできていない等を説明していただきたいと思います。そしてそれらが、次の年へのやはりステップになっていくのではと思うのですが。

○会長

よろしくお願いいたします。

○事務局

第二次図書館サービス計画では、重点的に取り組む事業というのが5つございました。

図書館システムの一元化の推進については、これは、阿東図書館ができることによって、書誌データを6館全部TRCにそろえて、図書館ネットワークを組んで、図書館システムを一元化することにより、市民がどこに住んでおられても、どこからでも予約をかけてどこでも受け取れるような図書館サービスを実現してきています。1番目の、図書館システムの一元化の推進は達成できたと思っております。

2番目に、移動図書館サービスの充実、でございますけれども、2次計画当初から、北部方面へのサービスの充実を想定し、移動図書館「ぶっくん」グリーン号を配置いたしまして、現在では、移動図書館サービスポイントを、利用実態等を勘案し、39箇所を増やしてきており、利用人数も増えてきております。

図書館に来たくてもなかなか来られない方へ、図書館サービスを届ける移動図書館サービスの充実も、着実に達成できてきていると思っております。

それと、3番目の学校図書館支援サービスの拡充という目標でございますが、これも学校図書館との連携も着実に進み、学校現場の先生等からの要望も踏まえ、配本サービスも充実させてきております。その結果、毎月小学校に本を100冊、中学校に50冊、幼稚園には25冊持っていくとともに、希望する私立幼稚園にも25冊の本を配本いたしております。そして、学校からの要望を受け、学校図書館の運営の指導や、授業の中でのブックトークのための職員派遣等の依頼には、しっかりと応えてきております。3番目の図書館支援サービスの拡充もほぼ達成できていると思っております。

それと、4番目の地域資料サービスの充実ですが、これは3万点の所蔵を目指し、地域資料を増やしてきております。それぞれの分野の選書担当の職員が心がけて、山口市にゆかりのある方の資料等を計画的に揃えてきておりますので、この項目も充実ができてきていると思っております。

それと、5番目の阿東地域の図書館サービスの充実がございました。これは、阿東図書館を整備することが目的でございましたが、この2次計画中に、新阿東図書館は、場所を変えて新築移転しておりますとともに、書誌データの統一により、市内のどこの図書館の本も、阿東図書館で、借りたり返したりできるネットワークの仕組みもできております。

また、サービス計画にある、分館配送についても、阿東図書館館を中心に実現しており、4つある、阿東地域の地域交流センター分館でも、図書館の本の受取等ができるようにしてまいりました。阿東地域の図書館サービスの充実も、達成できたと思っております。

第二次サービス計画での重点的に取り組む事業については、大方達成できたと考えております。

しかしながら、現在、達成が難しいものとしては、計画目標の指標面についてでございます。「日本一 本を読むまちづくり」を目指す中で、大体19万7,000人ぐらいの人口を想定し、市民1人当たり10点の貸出を行うという目標がございました。

つまり、一年間での市民への貸出点数が今7.5点なので、全国の中核市45市中6位ぐらいに相当する成果は出ているのですが、図書館サービス計画上で、日本一を目指した貸出点数は、まだまだ目標に届かない現状でございます。それに加え、入館者数も、大きく目標に届かない現状でございます。

つきましては、市民の利用カードの登録率が、四十四%程度なので、これを増やすためにも、本年度も、歴史講座等を実施して、日頃、図書館を利用されないような方に来ていただくような、図書館利用のきっかけづくりにつながる取組みを実施してまいりました。

新年度はレノファ山口との連携を前面に打出してまいります。図書館アンケートでは、20代の市民の方の図書館利用が少なかったため、そういう新しい層にアピールしていき、登録率を増やしていくとともに、貸出点数も増やしていくことを目指した新年度予算といたしております。

○委員

わかりました。

○会長

ここでは、予算について特化させていただきたいと思います。お願いいたします。

○委員

予算の中の貸出図書磁気付加装置ですが、それが中央図書館と小郡図書館でということですが、それは、ほかの図書館には全部ついているのですか。それと、これから随時、山口市の全体にそういうのを広げられるおつもりでしょうか。

○事務局

貸出図書磁気付加装置については、中央図書館と小郡図書館のみです。これは、貸出処理をしないで、持ち出したときに、ピーと知らせるものなのですが、これがあるのが中央図書館と小郡図書館だけございまして、ほかの図書館に導入していく予定はございません。

○会長

BDSのピーと鳴るほうはともかくとしても、自動貸出機はあってもいいのかもしれないですね。もしかしたら、地域の場合はカウンターで顔を合わせるのがいいというような御判断かもしれませんね。

○委員

私は、県立・市立図書館ともに、自動貸出機で借りるほうが待たなくていいということがまず一つありますし、どんなものを借りたといちいち見られないとは思いません。何かその辺が自由度が高いというか、そんな気はしてはいます。

ただ、地域館の経営等、なじむのかどうかという問題はあるかもしれないという

気はします。

○会長

北の拠点館と南の拠点館という言い方があるわけですが、そうすると、今予定はないと言われたけど、地域館の役目というのがあるのですが、それも拠点館なので、もし小郡地域の方が、簡単に、私も貸出機を使いたい。カウンターで何を借りるかというところも知らせたくないというような方もあると思うので、少し、このことで御検討いただきたいと思います。地域館でどういう状況かとか、本がなくならないとか、カウンターでやはり顔を合わせることがいいのかなと思ってみたいところがありますので、御検討いただければと思います。

○委員

図書館資料整備事業の中に、基礎資源である資料のさらなる量的・質的な充実と書いて、プロジェクト事業、というように書いてあるのですが、これは一体何を指されるのか知りたかったのです。

資料費は前年度同額ということで、年間の新刊発行点数からすると、何かそのまま増やすということであれば、特別なプロジェクトではないような気もするのですが。

例えば地域資料に関していえば、資料を購入するというだけではなくて、例えば寄贈されたものを集めるのにかかる経費だとか、こちらのサービス計画の中には、地域資料に関しては、別なプロジェクトを組んで集めていくようなことも書いてあったように思うのです。つまり、地域資料収集アドバイザーですね。こういったものに関する経費とかも含まれているのでしょうか。

○会長

プロジェクト経費の説明、よろしく願いいたします。

○事務局

これについては、プロジェクトという言葉が使っておりますが、これは、市の予算立ての都合上の言葉でございまして、一般経費とプロジェクト経費というのがございまして、図書館資料整備事業についてはプロジェクト経費で特別に認められている部分があるということです。

それが、六百数十万円ですが、これは市の大きなプロジェクトの予算措置として図書館資料へ予算が配分されているといった意味でございます。特にこのプロジェクト事業で何かをするということではございません。

○会長

このサービス計画ができた頃には、地域サービスアドバイザーということが言われておりましたが、いかがでしょうか。

○委員

地域資料収集アドバイザーとは、地域住民を中心とした資料情報の収集を強化するための組織のようですので、こうしたことを取り組まれているのかどうかということです。

○会長

現在も取り組まれているのかどうかということです。その次の第三次をつくられるときに、今までの課題と、本日は出てこないと思いますが、次の図書館協議会の委員の方は目にするとと思われる今の課題を拾い上げていただきたいと思います。

○事務局

地域資料収集アドバイザー設置の取組を、今までしてまいりましたが、現在まで、そういう仕組みはできておりません。

そういう趣旨の取組も、新しい計画の中で検討してまいりたいと思っております。

○会長

わかりました。

○事務局

次期サービス計画の中での課題といたします。

○会長

山口市のいろんな資料、特に地域資料を収集する仕組みを、次回は是非作っていただければと思います。

やはり図書館内部の方だけでは限界があり、日頃のお仕事もお忙しいでしょうから、地域に根差したような、秋穂なら秋穂ならではの資料を収集するとか、声を聞くとかいうことが大事なのかなと思っております。

ほかにどうぞ、お願いします。

○委員

子ども読書活動推進事業の中に、読書感想ノートの活用支援というのが入っていますが、学校図書館支援サービス事業がふさわしいと思います。それは、子ども読書活動推進事業というのは、お話を読むとか、物語を読むとか、そういうことに子どもたちに目を向けてもらうための活動のように思います。

読書感想ノートに関しては、もちろんそういう趣旨もあるのですが、図書館は楽しみで本を読むだけではなく、いろいろ調べ物をしたりとか、興味・関心を広げたりという、そういう要素を強く持っているということを小学生・中学生あたりから広く知ってもらうためにも、この読書感想ノートが活用されたらいいなというように個人的に思っています。

そういう意味では、いわゆるお話の本を読んだだけの読書ノートではなく、こんなことを調べましたということも書いていける読書ノートであって欲しいと思います。

それを考えたら、学校図書館支援サービス事業にこれが入ると、学校図書館の活動と連携して幅広いノートの活用というのができるのかなというように思います。

○会長

本年度はここに入っておりますけど、内容を精査していただいて、この項目をどこに入れたらいいかというのを精査していただければと思います。

○委員

小中学校に入っている読書ノートというのは、形式が決まっているのですか。

○事務局

既に成果品ができております。

○事務局

これは、山口市の学校教育課で作成しております、図書館の紹介も入れ、1人50冊の感想が書けるようなノートになっております。それを3月中には配布して活用していくということを聞いております。

50冊を達成された方が図書館にノートを持ってきていただきましたら、次のノートを差し上げるというようなことも考えております。

○委員

読書ノートの配布とか活用というのが学校図書館支援サービス事業で、さらにそれを活用した子に対する支援が、子ども読書活動推進事業になると思われました。

活用することは学校図書館支援サービス事業で、それをさらに広げるということ子ども読書活動推進事業かなと思われました。

○会長

両方またがっているような、いずれにしても取りやめがないようにぜひともお願いいたします。

それでは、次に行かせていただきまして、計画とやはり連動してくる問題があるかと思えます。ですから、新サービス計画の骨格について御説明をいただき、その質問をするということと、予算のことでも結構ですので、あわせて質問をしていただければと思えます。

それでは、第三次山口市立図書館サービス計画の骨格について御説明をお願いいたします。

○事務局

第三次のサービス計画の骨格の事務局の案につきまして説明をさせていただきます。

昨年6月に全体のスケジュールを説明させていただきました、10月にはアンケートの結果の報告をいたしたところです。

今回は骨格案ということで、御意見を賜りたいということでございます。

昨年4月から、中央図書館の4名の職員によりまして毎週議論を重ねまして、今後の具体的な取り組みをどういったことをしたらいいのだろうかとか、5年後の市立図書館はこんなふうであってほしいというような思いを描きながらつくりました骨格の案でございます。

まず、目指す図書館の姿につきましては、二次のほうから引き継ぎまして、「どんな時も身近に役立ち、出会いを大切にする図書館」といたしております。

この目指す姿の「どんな時も」というのは、学ぶ・暮らす・働く・遊ぶなど、日常生活のあらゆる場面に対応できるようにとの願いが入っているものでございます。

また、「身近に役立ち」とは、気軽に図書館が利用でき、相談体制が充実し、課題や悩みを解決する手助けができるようにと狙いをいれております。

また、「出会いを大切にする」とは、本と人、人と人の出会いをつくる場所になっ

てほしいという願いがございまして、この目指す図書館の姿といたしております。これを引き継いでいく、踏襲していこうとするものでございます。

次に、今回も3つの目標でまとめております。

まず基本目標1、現行の計画から変更したところといたしまして、市民のところ、利用者ということで変更いたしております。これは、市民ではない、例えば行政支援サービスに今後力を入れていこうということだとか、山口市民以外の方にもサービスを提供していくということから、市民から利用者という言葉に変えております。限定的に図書館に来られる方というわけではなくて、広く図書館を使っていただく方にサービスをしていこうというような意味で、この言葉に変更をいたしております。

基本目標1につきましては、さまざまな場面でさまざまな利用者に役立つ図書館サービスを提供していこうというものでございます。例えば、ここの基本目標1の下に入る具体的な取り組みといたしましては、市立図書館や移動図書館、地域交流センターへの配本サービスのような、市内全域に均一なサービスを提供するとともに、ホームページや図書館情報システムを通じて利用者の利便性の向上についても、この目標に入ってくると考えております。

また、各分野の基礎資料の収集、他の図書館や行政関連部局と連携して必要とされる資料や情報の提供に努めること、そして、一人一人の課題解決に対応するため、図書や電子媒体を調査する技術や質問の核心を聞き取る技術、回答のためのツールの作成ができる人材育成、レファレンス能力の向上、といったことも入れたいと思っております。

また、地域資料や行政資料の収集、地域に関する情報の発信もこちらに入れていこうというようなところで、職員の中ではそういった話が出ております。

また、具体的な取り組みについては、職員でよく検討いたしまして本協議会にお示しできるようにしていきたいと考えております。

次に、基本目標2でございます。こちらにつきましては、次代を担う子どもの育成を支援する図書館ということで、現行の計画と同じといたしております。こちらは、子どもたちが読書に親しめるよう環境を整えていこうとするものでございまして、例えば学校や幼稚園、保育園などにおいて読書活動がより活発になるように、学校図書館や幼稚園、保育園を支援することがこの目標の中に入ってくるといところでございます。

また、子どもと保護者が読書に親しんで、心の安らぎと豊かさを得られることができるように児童サービスを充実していくということもこの目標に入ってくるといところでございます。現在の目標を引き継ぎ、新たな取り組みが何かできないかと思っております。

次、基本目標3につきましては、これまでと目標を変えております。市民の知的好奇心を刺激し、地域に潤いを与える図書館といたしております。これは、昨年度から始めております図書館活用推進事業を意識したような形のものになってございまして、先ほど予算で説明いたしました、やまぐち歴史講座、ワイワイ図書館、図書館まつり、

その他のイベントや講演などの取り組みで、利用層の拡大につなげたいということでございます。

目標には、市民の知的好奇心を刺激しという言葉で本との出会いの場を設定することを組み入れております。

また、昨年実施しましたアンケートには、図書館が重点的に進めるべきと考える機能・サービスという設問がございまして、その中で多かった回答として、子どもが楽しく過ごせる空間の提供や大人がゆったりと余暇を有意義に過ごせる空間の提供というニーズが高く出ておりました。

また、時代の進展ということもあわせまして、サード・プレイスとしての図書館が求められているのではないかと認識しておりまして、その面を計画に盛り込み、地域に潤いをあたえ、好奇心を刺激し、図書館でゆったりと過ごすための取り組みについて、この基本目標3に入れていくところです。

いずれにしても、図書館に行けば何かに出会える、何かなくても和む、心が潤うというような心地よい場所になったらとの思いで、基本目標3を設定しております。

もちろん、これまで基本目標3に入れておりました市民とともに、協働でという部分については、具体的な取り組みだとか目指す方向でお示し、それを溶け込ませたものにしていきたいと考えております。

以上が、事務局の骨格の案でございます。これは、現時点の案でございまして、決定ではございませんので、皆さんの意見を聞きながら、その他の方々の意見を聞きながら、平成29年度中には完成させたいと思っております。

なお、今後のスケジュールですが、次期サービス計画の骨格、検討中の事項の説明、計画の素案、その後パブリックコメントを実施し、教育委員会定例会に上程するといったことを順次行ってまいります。

ただ、上位計画の山口市総合計画や山口市教育振興基本計画がサービス計画と同じ平成29年度で期間が終了となっておりますので、こちらと歩調を合わせながら、また、内容も調整していかないといけないと思っております。今の時点で何月に何をやりますということはお伝えできなく申し訳ございませんが、皆様方には適宜御報告、御意見を伺う場を設けたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

総合計画や教育振興基本計画については、夏頃に骨格が示されるとは聞いておりますけれども、少し遅れ気味になっていると御認識いただけたらと思います。

以上でございます。

○会長

三次計画は、次回の図書館協議会で示されるのでしょうか。また、本協議会とのかかり合いというのはどうなりますでしょうか。

○事務局

現行の二次計画の策定スケジュールは、4月から開始しまして7月ぐらいに骨格を協議会でお示ししております。今回は、早めに動きましてアンケートも実施いたしました。骨格ができたころや枝葉ができたころ等、ポイントポイントで図書館協議会に

話っていきたいと思っております。

○会長

わかりました。前はかなり内容も見ている、修正をしたいと思ったところがありましたので、今後はどのような関わり合いをするのかと思ひまして聞いてみました。

○事務局

やはり市民の代表の図書館協議会での意見は、できるだけ拾い上げるようにしていきたいと考えおりますので、ポイントポイントで話らせていただきます。

○会長

ありがとうございます。

それでは、私からですが、基本目標3に市民が残っていますけれども、これはやっぱり市民となりますか。私は、利用者とする、限定的に捉えられると感じてしまいます、やはり市民全体の知的好奇心ということですね。

基本目標3は利用者ではないのですね。使い分けをされているわけですね。少し不思議な感じがしました。

○事務局

図書館から発信できる範囲が市民というところもありまして、市民以外の方の好奇心を刺激することや潤いを与えるというのは、また別のことと捉えておりまして限定的にしております。

○会長

基本目標1も市民という表現でもいいのかなと思ったりしています。

○委員

御説明いただいたので、利用者となっているのが限定的ではないというのもわかりましたけれども、資料を受け取った時に市民が利用者に変更になっているというのは、限定的になっているのかと思ひました。

○会長

この表現では、利用者は来館者だけみたいな感じがして、もっと大きく捉えられているというのは十分了解していますけれども、そのあたりは御検討いただきたいということで。他に何かございますか。

○委員

29年度の図書館の収集計画、今年度は主に歴史関係ということで書かれていましたが、次年度はどういうところを重点的に収集されるのでしょうか。

○会長

収集方針、計画とかがありますか。

○事務局

歴史と申しましたのは、図書館活用推進事業の企画を打つときのテーマが歴史ということで、図書館は、資料収集方針がありますので、一貫した蔵書コレクションを、選書の委員会の中で、司書の目で継続的な山口市として一番ふさわしい図書館の収集をしております。もちろん地域資料もしっかりやっております。

企画を打つときには今年度は歴史に傾倒しておりまして、県が明治維新150周年に向けた取組を推進していることや、本市は明治維新の策源地ということでアピールをしていくという中で、山口市と、例えば薩長同盟でしたら、鹿児島市立図書館と連携し、上手に読書推進につなげるような形で取り組んでおります。

その他には、レノファ山口などJリーグに興味のある方々に来ていただいたり、近くにはスターバックスコーヒーが出店されますので、そういうことに興味のある方にもぜひ図書館に来てもらえるように様々な企画を考えています。

○委員

レノファ山口、どんな本を入れるんですか。

○事務局

中央図書館においてスポーツ関係で連携して事業をやっているというのは今までございません。サッカーに関連する本だとか、もちろん相手チームに関連する本だとか、相手の地域の情報だとかいうのを一緒に展示してというようなことも考えております。また、レノファチームの紹介もするというようなことも考えております。

○会長

選手に本を紹介してもらおうとか、お薦めの本とか、それが一番良いと思います。

○事務局

図書館に来ていただくための企画の中でのレノファとの連携であって、蔵書の収集ではございません。資料収集方針がありますので、それに則って一貫した蔵書コレクションをつくっていきます。

○委員

それと、どうしても蔵書に関心がいってしまうんですけど、先程から地域資料というのがでていますが、市民にいろいろ提供するという目的のある市立図書館として、地域資料というのはどういうところを指すんですか。

活字になっているものをやはり中心で、貸し出すことを念頭に置いた地域資料の収集という意味なんでしょうか。

○事務局

最近では、AV資料の地域資料のコーナーをつくりましたし、活字ももちろんですけども、図書館で開催したイベントなどをY t u b eで見せていくということも行っております。

やはり歴史がまだ13年しかたっていない図書館で、今盛んにやっているのは、山口市にゆかりのある方とか、地域の文化・伝統を継承するための図書を集めていこうとしておりまして、地域資料の収集、紙ベースのものも盛んに進めております。

○委員

ここの図書館の予定でないかもしれませんが、例えば民間にいろいろと私蔵されているような江戸時代の古文書であるとか、県には県の文書館、これはもう大きな萩藩を中心としたものですけども。

例えば各当時の村落にあって、残っているといたら、それらのものというのは、

やはり個人蔵になると、いろいろと虫が食ったり、いわゆる保存問題というのが残っていると思いますけれども、そういったことというのは、直接目的じゃないので、地域資料としてのとりあえずは対象外というふうな考え方でいいですか。

○事務局

いいえ、各地域館にはそれぞれ歴史のある、例えば阿東図書館には、阿東の地域行政資料のようなものとして旧阿東町のものを引き継いだものもありますし、徳地図書館は、旧県立図書館でもありますから、2階に行きますと、びっくりするぐらいの豊富な地域行政資料がございます。

TRCに書誌データがあって、簡単に受けられる本を購入し、それを市民に提供することもやりますけれども、市民から寄贈された非売品のような本も、手間がかかりますけれども、一冊一冊を少しずつ蔵書の中に加えていくというか、そういうのも取り組む使命がありますので、中央もやっておりますし、それを外すということはありません。

○委員

これは、おそらく山ほどあると思います。

○事務局

そこを充実させるためには、今のスタッフだけではなく集中的に人の確保をして少しずつやっていかないとできないと思います。歴史のある図書館のように地域資料コーナーをつくりあげいく使命があると思います。

○会長

関連として、おそらくそれぞれの図書館のスタッフだけでは地域資料を扱える人が少なくなってきたと思います。県立図書館になってくると少し違うかもしれません。そこも少しずつ昔と違ってきていると思いますけれども。

今、業務で多忙だと思うので、地域資料の関連業務を専門にするような人を確保するための予算を、やはり確保しないと、今のことは多分対応できないですね。

今、そういうのも含めてと言われますけど、実際は多分難しいと思います。人を雇ってくださいといっても、正規が本当はうれしいですけれども、そういう人たちの養成もあわせてしていただきながら、今までやってきた実績のある方をきちっとどこかに据えて、そこでお願いするというようなのがよいと思います。予算化していくというか、そこに重点をやはり置かないといけないと思うので、その問題はぜひお願いいたします。

地域資料というのは購入が限られています。地域に眠っている資料ということとか、販売されていないものとか、市販のルートに乗ってないようなものというのを考えていただきたい。

29年度は、予算を流用できるのであればですけども、できないのであれば、30年度は、ぜひとも予算化をしてください。

○委員

私は、本ではなくて映像ばかりやっておりますけれども、各地にいろいろな祭りや、

しきたり、行事がこれまでありましたけれど、だんだん廃れてきて、年寄りになったからできませんとかいうのがあちこちであるのではないかと思います。

そういったものを全部掘り起こして、山口市としての映像集をつくれればいいなと思ったりしております。私が全て回るわけにはいきませんから、例えば地域の人にカメラを持って撮る人がおられるなら、そういう人に撮ってもらって、まとめるのは私どもがしてもいいかと思っております。

地域を記録しようという人がいらっしゃったら、それを撮ってもらって、私が預かって、見られるようにきちんと作り上げていくという、そういうことならお手伝いできると思います。

それからもう一件、ワイワイ図書館というのは、全館同時に開催されますが、各館が何をされているか撮ってみたいなのというのがあります。同じ日に、全部撮影するというのには限界がありますけれども、去年は阿東の活動を撮りましたけれども、各館を回って、各館はこういうようなことが一番目玉になるんだ、これだというのを、撮るとおもしろいのではないかと思います。

○会長

この前から映像のことをおっしゃっていて、多分、今の図書館のスタッフだけでは映像まで撮るとするのは難しいと思いますので、地域の方に依頼していくことはとてもいいアイデアではないかと思っております。

他に何かあれば。

それでは私から、基本目標3の地域に潤いを与えるといわれると、どんな潤いがあるのかなと思ったりして、これ図書館の目標なのか、先程、本との出会いの場とか、サード・プレイスとか、居場所とか説明がありましたが、何か地域に潤いじゃなくて、その方たちが潤いを欲しいのではないかなと思いました。違和感がありました。ということだけ述べさせていただきます。

○委員

例えば、かつて児童図書館というのがありましたね、湯田地区ですけれども。あそこが、子どもを持つ保護者同士の語らいの場であったり、情報交換の場というように、一種のサロンみたいなものができていたというふうに聞いています。

それが、ここができるおかげで向こうがなくなっていった、そういったものを、例えばここで実現させるというお考えなのか。

あるいは、時間のたくさんあるお年寄りたちの生きがいの場として、そういった語りの場、本を中心とした語りの場にしていこうというふうなことなのか。

それとも、総合的に一つの、ここに来たら誰かいて、何か本があって、お互い話ができるというふうな形にしていこうということでの潤いなのか。

その辺、どうなのでしょう。潤いというのは、基本的には、あっていいですし、あるべきじゃないかなと思うのですが。

○事務局

市民アンケートの中で、居場所としてという回答が多くございまして、例えば山口

市でどこかに行こうと思っても行くところが少なく、図書館行けば、本があって、雑誌があって読めるようにしていますけれども、そういうふうな居心地がいいという視点も一つ必要と考えておりまして、コーヒーを飲みながら雑誌を読むというような、世の中ではそういう時流の図書館もあります。

これまで中央図書館では読書推進を中心にやってきましたけれども、市民アンケートには、居場所としてというのがすごく感じられました。委員が言われました、いることで居心地がよくて、かつ様々な情報もあるというような図書館にできないかと思っております。

○委員

例えば山口大学の図書館なんかでは、安い値段でコーヒーを飲みながら本を読むみたいなコンセプトがありますが、ああいったイメージですか。

○事務局

全国的には、浦安図書館などもカフェを飲みながら本を読める場があったり、岩国図書館もご飯を食べながら本が読める場所もあったり、山口市立図書館はこれまで飲食禁止を貫いてきたんですけど、それは伝統だから変えないにしても、少しそういうふうな要望を持っていらっしゃる方も居心地よく滞在できる場所ができないかなというのが時代の進展なのかもしれません。

そういうふうなことを市民が求められるのは、他の図書館でそうだから、ああいう使い方も図書館でできるねと、市民から発信が出ているのかなと思ったりしております。

維持管理は大変だと思いますけれども、そういうニーズがあるようでしたら、課題解決や新たな本の提供ばかりではなくて、場所として、空間としてのニーズがあると捉えて、地域に潤いを与えるという形で、居場所を意識した表現にしております。

○会長

子どもへのサービスとか、お年寄りにとりか、どこかに特化するようなサービスというのはあるのですか、それとも満遍なくやられるのでしょうか。

○事務局

満遍なくサービスを行うように考えています。

図書館の使命というのは、図書館法や望ましい基準などを踏まえ、それももちろんやらなければならないですけども、そういうスペースもあってもいいのではないかと思っています。

全部をそういうふうにするわけではなくて、そういった空間もつくりたいと思っております。そういう使い方ができるような空間もつくってアピールができないかなと思っております。日ごろ図書館は堅苦しいし、敷居が高いから行きたくないという方にもぜひ来てほしいというところもございます。

○会長

まだまだ御意見等あるとは思いますが。

日ごろ図書館を御利用いただき、ヘビーユーザーだと思いますので、何か気になる

点とか、ここは少し改善したほうがいいよというようなどころとか、この部分は市民に評判だよというようなどころがあれば、この場でぜひ教えていただければ、今後のサービス計画等にも反映できますし、30年度ではなくても、29年度にも反映できるかなと思いますので、自由に御発言いただければと思います。お願いします。

○委員

先日、トネリコの学習会に周南市からいらした男性の方がいまして、トネリコの入会案内をおいておりましたら、入会したいとおっしゃって、周南も利用しているし、ここも利用しているけど、こっちのほうが良いという御意向でした。

図書館運営に関しているとついつい文句というか、不平不満みたいになりますけど、両方を利用されていると、山口には山口のいいところがあって、わざわざトネリコにも入ろうかなとおっしゃいました。

○会長

トネリコ学習会に図書館の職員が何人いたかなとか思いまして、難しい日だったんですかね、土曜日、行事がいろいろあって。何かちょっと残念かなと思っております。ぜひ、やはり聞いていただきたかったテーマだったかなと。ぜひ研修の機会という形で考えていただきたいと思います。

職員の休みに出席するのではなくて、研修として出席することができないでしょうか。トネリコの学習会ですけれども、秋穂とか、徳地とか、阿東とか、阿知須とかからも来られるようなことになればいいな、今度は逆によその学習会のときも、研修ということで出席できるように御検討いただきたいと思います。

他に何かお気づきはありますでしょうか。

○委員

いくつかありまして、一つは、前から言っていることですがけれども、次期のサービス計画、子ども読書計画にかかわるかもしれませんけれども、ぜひ、学校図書館の支援サービスの対象の中に、特別支援学校やフリースクールなどもぜひ入れていただきたいと思っています。

2つ目として、私は中央図書館を使うことが多いですが、サービス計画の目指す姿である人と人との出会いの場所の実現を考えたときに、集まれる場所というのがとても難しいです。できましたら、ボランティア室が読書会や勉強会などに使う部屋として確保していただきたいと思います。例えば入口に読書会を開催している表示をしていただくようにしていただけると、読書会や俳句会をしているところがあることを知っていただけますし、図書館にいて違う誰かと出会える場所にするために必要だと思います。今は、地域交流センターなどに拠点を持って源氏物語を読む会等をしておられますが、どこで何をしているかがいま一つ見えないところがありますので、ボランティア室を利用されることで、集まる場というのができると思います。

3点目は、本年度の図書館まつりでは、少し急な計画ではありましたが、県立大学の学生さんが沢山のアイデアを出されて、脱出ゲームをされました。考えてみますと、市内には高校・大学がありますので、例えば高校の文芸部だとか、あるいは

大学生についても、図書館まつりだけではなくて、山口大学の学生が選んだ本だとか、常時何か関わってもらえる若い力が沢山あると思いますので、その辺を連携の仕方の一つとして考えられるかなと思います。

それと、地域資料のことですけれども、寄付の申し出を待つだけではなく、集めているという情報を発信しないと、なかなか市民が持ってこられないと思います。集めることも大事だと思いますので、御自宅に眠っている古い資料の提供を呼び掛けることも必要と思いました。

最後ですけど、とても感心したのが、12月に氏原大作の、幼き者の旗という映画を観に行きました。あまり鑑賞される方がいらっしゃらないと思っておりましたら、満席で、阿東地域はすごいなと思いました。

氏原大作に関しても、生家を生かしていく会があります。地元の顕彰会や遺構を残そうとする会をバックアップするという使命も図書館にあのではないかと思いますので、それもお願いできたらと思っております。

○会長

今のおさらいをします。

特別支援学校等の学校図書館への支援については見落としはいけない部分ですし、ボランティア室をどう使うか整理すれば交流の場になるとか、それから、若い人の力の活用というか、高校・大学ということですね。

大学は連携という形を模索していらっしゃいますけれども、高校生と連携するならば、学校図書館の支援をしなければだめだなと思っています。若い力を活用するためには、学校図書館の支援、高校の支援も山口市が率先してやるというのが必要ではないでしょうか。

地域資料を集めているという情報発信も必要ですし、そのためにも人というところが必要になってきます。また、顕彰会のバックアップの件、沢山課題が出てまいりました。ありがとうございます。

○委員

山陽小野田市立図書館では、市内の高校生のお薦めコーナーが常時あります。

また、講座として、山陽小野田市立山口東京理科大学が公立大学になる前から、理科大の先生たちと連携してサイエンスカフェを開催しています。そこに、高校生が参画しています。また、来館者には、若い人の姿が見えることが多いですし、市内の小中学校の学校司書とうまく連携しているのかなと思います。

○会長

山陽小野田市は、高校生や大学生を巻き込んでいらっしゃるの、山口市も、一つのモデルとしてやっていただきたいなと思っております。

○委員

最初は、特定の高校から始めて、実施しているうちに他の高校の文芸部などから声があがらないかなと思います。

○会長

山口市内の高校生ですし、在学している子たちへの企画も考えていただきたいと思います。

それでは、他に何かございますか。

○委員

例えば山口県内図書館連絡協議会のような、情報を交換する場はありますでしょうか。実務者会議とか。

○事務局

実務者会議はございません。館長会議はありますけれども、皆様忙しいようで欠席が多いです。

○委員

例えば、開館時間や様々なサービスなど、各図書館のいいところをお互い取り込む、あるいは問題があるとか情報交換する中で、今の高校の取組でしたらどこでもできるし、考えられるのではないかと思います。

そういう図書館同士の情報交換の場があればより、それぞれの図書館がお互いを見することでサービスの改善ができるのではないのかと思います。

○事務局

館長会議で課題を出すことについては、確認してみます。また、高校に対する取組について館長会議で聞いてみようと思います。

○委員

高校生の参画や利用を進めるためにも、県教委や市教委、県と市の担当者などが協議していくべきではないでしょうか。

○委員

2月の初めに宮崎県でのフォーラムに出席いたしまして、そこで、宮崎県知事が日本一本を読む県にするとの発言がありました。知事がああいうふうに言われると、市も県も垣根がなくなると思います。

○会長

県立図書館の会議で高校の学校図書館支援といっても、なかなか動かないですね。これに関連しても結構ですし他に質問はございませんか。

○委員

中央図書館の子どもの書架にびっしり本が並べてあります。取れない。子どもには取りにくいとおもいますので1冊分ぐらいちょっと余裕をあけておいてください。

○会長

とても大事です。それはすぐできることです。

○委員

心豊かにするという前に、土曜や日曜、図書館にあるスペースを使って、100桁計算や漢字の練習、ちょっと難しい算数・数学を教えてもらえるなど、学習支援をしてはどうかと思います。中央図書館は必要ないかもしれませんが、できたら学習支援の場を、予算をかけないで提供していただけないでしょうか。

○委員

すごいいい案だと思いました。気軽に来て頂けるようなものを、図書館で例えば講演などと筋肉体操を組み合わせていますが、閉鎖された会議室で開催するよりも来館者から見える場所に案内を置ければいいのかなと思っています。例えば本を探して能力アップしようとか、図書館の本探しとか、ヒントがたくさんあります。私たちの友の会でも、何か図書館とコラボできないかと考えています。

○会長

他の委員さん、いかがでしょうか。

○委員

図書館での学習支援は、とてもおもしろい発想と思いました。なかなか指導者が見つからない気もしますけれど。従来のパターンから少し考えを変えて図書館の運営をするというのもいいのではないかと思います。

○委員

先日、阿知須図書館に行きましたら、中学生が保育園の子どもに読み聞かせをしていました。年に1回とのことでしたが、そういうのをどんどんふやしていったらいいなと思いました。

また、子どもに本を読ませようと思ったら、カードにつけさせるとか、読んだ本を発表するとか、そういう事を設けるとどんどん読むようになります。やはり大人もそういうのがあったらいいと思いました。大人にもカードがあって一杯になったら何か貰える等があったらいいと思いました。

○委員

私から取り組みの一つとしての提案ですけれども、この2月に伊万里図書館で開催されました家読、家で読書をするという研修会に参加いたしました。

市立図書館の貸し出しが伸びない、入館者が少ない、余り増えない。これを、イベントをしても、一過性になってしまっているのではないのでしょうか。例えば50人ぐらい集まっても、そのうちどれだけの方が図書館の本を利用されているのだろうか、もともと利用している人が利用しているのではないだろうかと思っています。違う取組を行えば、そこが改善できるのではないかと思いますので参加してみました。

家読というのは、子どもが本を借りて帰って、子どもと親、あるいはおじいちゃん・おばあちゃんなどでその本について話し合ってみようというような取り組みです。

伊万里では、いじめの問題などの事件が立て続けに起きたときにいじめをなくし、地域社会がもう少し子ども同士の関係を豊かなものにできる何か方策がないかという考えの中で、どちらかという市長から図書館にオファーがあってから始められたというようなお話を聞いています。

山口市でも身近にいる身内と本について話すということが出発点になるかなという考え方です。

伊万里では団体貸出の際に職員やボランティアが同行して絵本の読み聞かせやお話をされているようです。また、こんな本を読みましたという親からのメッセージも、

カードみたいなもので報告されているようです。

文部科学省の子どもの読書活動推進基本計画にも家読ということは掲げられていますし、まだ他の自治体でも取り組んでいるところは多くないですし、「日本一本を読むまち」を掲げているのであれば、家読も一つの方法として御検討いただければと思います。

○会長

ありがとうございます。御検討いただければと思います。

他にはございませんでしょうか。

○委員

私の子どもの通っている小学校でも今年初めて司書教諭と図書ボランティアとで家読をやりました。方法は、何の本を読んだのかということと親子で話し合ったことを子どもの言葉と親の言葉で書いて提出するというものです。

私の家では、普段から同じ本を読んで意見交換をしていますが、子どものお友達は、初めてお母さんと同じ本を読んでおもしろかったと言ったみたいで。定着するといいいと思っていましたし、他の小学校で取組まれていないようでしたら広がっていくいいと思いました。

○委員

おそらく、長門の図書館がやろうとしていると思います。

○委員

教科書をきれいに読むためには家での読みということが一番大事だなと思っています。ただ今の子どもたち、特に中学生は忙しい。部活も重要ですけれども、やはり日ごろの国語力ということでは、どんな本でもいいので、家で興味を持って読むということが必要と思っています。

別の質問ですが、ある利用者から返却ポストに返却をしたものの本を返したとか返さないみたいなトラブルがあったという話を聞きましたが、他にそういったトラブルはありますか。

○委員

きのうたまたま、利用者の方が自分は返却しているのに書棚に戻っていたと苦情を言っておられました。

○事務局

全体の処理量に比べたらそういったことが起きる確立はかなり少ないと思いますけれども、言われているようなことはあります。予約や返却も含めてかなり処理量がありまして、漏れがないようにと指導していますが、なかなか全て完璧にとはいかないのが現状です。

○委員

なるほど、わかりました。

○事務局（小郡図書館長）

それと追加いたしますと、督促については、最初に葉書を出しておりますが、長期

延滞された場合には電話を掛けておりますけれども、その際にブックポストに返したはずだとなることがあります。過去何年前に、ポストに返したと言われますとそれを証明するのが難しいということもあります。そういう事例は何件かありました。

○事務局

山口市は、他の市に比べると不明本の数が少ないですし、ある程度の満足していただけのサービスは提供していると思っています。

○会長

職員の方は大変だと思いますけれども、よろしく願いいたします。

他の館長さん何かございますか。

○事務局（阿知須図書館長）

先程、委員さんのからお話がありました、保育園児に週に1冊ずつ借りていただいております。その日は、中学生が20名程度ボランティアに来て頂いて連携できないかと思って機会を設けました。

これからも、ハード的な資源とソフト的な資源をどうにかうまく活用して、利用者喜んでいただける、新しい利用者さんも開拓していくことをスタッフと一緒に考えてみたいと思います。

○事務局（徳地図書館長）

学習支援については、例えば大学の教育学部の学生さんたちが、社会活動ということで来ていただけるようであれば、徳地図書館に来ていただいて小学生の学習支援の講師をしてもらえないかと思いました。

○（阿東図書館長）

地域資料につきましては、氏原大作の資料をそろえておりまして、最近、大佛文乃の作品も収集をはじめたところです。先程委員が申されました専門のスタッフの必要性も感じております。

それともう一つは、本の貸し出しや図書を読んでもいただくために、ポイント制を導入するようなことが考えられないか思っております。

○会長

ありがとうございました。事務局から何かありますでしょうか。

○事務局

現委員の皆様は3月末までになっております。本日は、最後の会議となっております。2年間大変お世話になりました。

○事務局（中央図書館長）

委員の皆様2年間大変お世話になりました。皆様からいただきました貴重な御意見は、図書館の運営はもちろんですが、サービス計画の検討の際にも議論する中に取り入れて参りたいと思っております。

2年間お世話になりました。ありがとうございました。

○事務局

以上をもちまして平成28年度第3回山口市立図書館協議会を終了いたします。あ

	ありがとうございました。
	山口市立中央図書館 TEL 083-901-1040